

授業概要

前半では江戸期まで使われていた、変体仮名を読めるようにしていきたいと考えている。そのために百人一首からさらには江戸時代の版本などを実際に読んでみるという作業を行う。その上で、秋期には、自分の調べたこと考えたことを、人前で発表するということに挑戦してもらおう。どの作品を扱うかについては、相談の上で決定したい。ここでは、ちょうど同時期に4年生がどのように卒業論文を準備しているのかということについても紹介いきたい。

授業の形態としては、ほぼ学生の発表により授業を進めることとする。

授業計画

第1回	導入	第16回	導入
第2回	変体仮名とは①	第17回	発表の仕方①
第3回	変体仮名とは②	第18回	発表の仕方②
第4回	百人一首発表①	第19回	資料の作り方
第5回	百人一首発表②	第20回	発表①
第6回	百人一首発表③	第21回	発表②
第7回	百人一首発表④	第22回	発表③
第8回	百人一首発表⑤	第23回	発表④
第9回	百人一首発表⑥	第24回	発表⑤
第10回	百人一首発表⑦	第25回	発表⑥
第11回	百人一首発表⑧	第26回	発表⑦
第12回	百人一首発表⑨	第27回	発表⑧
第13回	百人一首発表⑩	第28回	発表⑨
第14回	百人一首発表⑪	第29回	発表⑩
第15回	百人一首発表⑫	第30回	発表⑪
		第31回	定期試験

到達目標

変体仮名を読むことができ、自分自身で日本文化、日本文学の古典分野の発表の基礎的な準備ができるようになることを目標とする。

履修上の注意

日本文学入門、日本文学史概論（古典）、日本文学講読（古典）などの科目をすでに履修しているか、平行して履修してもらいたい。

予習・復習

授業は、学生の発表により進めることとなるので、2週間程度の準備が必要となるので、それには積極的に取り組んでもらいたい。

評価方法

発表および定期試験（80パーセント）、その他受講態度等（20パーセント）で、評価する。

テキスト

特に指定しない。参考とすべき資料については、授業の中で指示する。

授業概要

今年度は、「西洋と日本」を共通テーマとして、両者の間の文化・経済の相互交流の歴史を講述し、互いに意見を交わしてゆきます。わが国は、しばしば「東洋の英国」と呼び慣らされるほどに、アジア世界では最もよく西洋文化に親しみ、その技術的成果を最も早く学び取り入れた国です。しかしながら今日わが国は必ずしもアジアのリーダーと見られている訳ではなく、時に厳しい指弾を受けることも少なくありません。近代日本のどこに問題があったのか、じっくり考えるべき時が来ています。この演習では、まず明治時代にわが国の西洋化の方向を指し示した福沢諭吉の『学問のすすめ』を読みながら、この課題をみんなで考えます。次に西洋の著述に触れ、「自分の内なる西洋」と実際の「西洋」との違いを明らかにしてゆきます。

授業計画

第 1 回	春期概要説明：テキスト選定の目的・狙い	第 16 回	春期成果の確認 秋期概要説明
第 2 回	『学問のすすめ』とは①：準備的考察	第 17 回	ヨーロッパとは何か①：主題説明
第 3 回	『学問のすすめ』の意義②：準備的考察	第 18 回	ヨーロッパとは何か②：増田史郎の視点
第 4 回	『学問のすすめ』と西洋③：準備的考察	第 19 回	ヨーロッパとは何か③：増田史郎の視点
第 5 回	『学問のすすめ』輪読①	第 20 回	ヨーロッパとは何か④：増田史郎の視点
第 6 回	『学問のすすめ』輪読②	第 21 回	ヨーロッパとは何か⑤：増田史郎の視点
第 7 回	『学問のすすめ』輪読③	第 22 回	小括：ヨーロッパ中世のイメージ
第 8 回	『学問のすすめ』輪読④	第 23 回	ヨーロッパ人の自画像①：フェーブル
第 9 回	『学問のすすめ』輪読⑤	第 24 回	ヨーロッパ人の自画像②：フェーブル
第 10 回	『学問のすすめ』輪読⑥	第 25 回	ヨーロッパ人の自画像③：フェーブル
第 11 回	『学問のすすめ』輪読⑦	第 26 回	ヨーロッパ人の自画像④：フェーブル
第 12 回	『学問のすすめ』輪読⑧	第 27 回	ヨーロッパ人の自画像⑤：フェーブル
第 13 回	『学問のすすめ』輪読⑨	第 28 回	ヨーロッパ人の自画像⑥：フェーブル
第 14 回	『学問のすすめ』輪読⑩	第 29 回	小括：ヨーロッパ文化の普遍性を巡って
第 15 回	春期成果のまとめと秋期準備：各自研究テーマの開示と課題小論文の指定	第 30 回	今年度演習の総括 各自の研究成果と課題について総評

到達目標

- ・プレゼンテーション能力を高め、実社会で職業人として活躍できる資質を養います。
- ・自分と異なる意見を尊重しながら、自分の意見をしっかりと表明できる力を養います。
- ・世界史における「西洋」の位置を理解し、自分自身の問題意識を持つこと。

履修上の注意

- ・「西洋史入門」や「西洋史概説」の受講を推奨します。ただし意欲さえあればこれらを受講していない諸君の参加も歓迎します。
- ・やむを得ない欠席や遅刻・早退は、事前に指導教員に通知し、了解を取らなければいけません。

予習・復習

演習は、全員が力を合わせ、心を一つにして初めて成り立つ授業です。そのためにはメンバー皆が、事前に時間を十分にかけて、入念に準備して臨むことが必要です。春期ではテキストを十分に読み込んで参加してください。秋期には、プレゼンターを毎回指名します。プレゼンターは報告レジュメ（発表骨子）を作成し、ゼミで披露します。その他のメンバーは、プレゼンターのために建設的な批判ができるよう準備してください。

評価方法

・レジュメ並びに小論文の内容の的確さと発表者の論点の独自性、プレゼンテーションやコメントの姿勢の真摯さ、そして演習という共同作業にどれほど貢献できたかを審査し、総合的に評価します。

テキスト

- ・教科書名：『学問のすすめ 現代語訳』
- ・著者名：福沢諭吉 齊藤孝
- ・出版社名：筑摩書房（ちくま新書）
- ・出版年：2009年

授業概要

この演習では、知的好奇心をなまけさせないように、現代の学問の奥深さに触れ、世界の中の日本を意識して、情報を発信したり受け取ったりするための基礎力を身に着けるために、特に「英語」で「読む」「書く」「話す」「聞く」の力を伸ばしていくことを目指したいと思います。ゼミ形式ですので発表が課せられる授業です。

具体的には1年生の時に皆さんが使った英語のテキストを読み返して、グローバル化した社会で、英語力を錆びさせない練習を取り入れます。またニュースなども取り入れ言葉による表現力の基礎を鍛える練習問題も使う予定です。ディズニーを英語で読むシリーズや英語字幕の映画英検教本を教材に使うことも考えています。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	Business Mathematics (1)
第2回	Letters and Languages (1)	第17回	Business Mathematics (2)
第3回	Letters and Languages (2)	第18回	Health and Nutrition (1)
第4回	Punctuation (1)	第19回	Health and Nutrition (2)
第5回	Punctuation (2)	第20回	Social Studies
第6回	Poetry (1)	第21回	Geography (1)
第7回	Poetry (2)	第22回	Geography (2)
第8回	Story (1)	第23回	Meteorology (1)
第9回	Story (2)	第24回	Meteorology (2)
第10回	Calculations (1)	第25回	World Issues (1)
第11回	Calculations (2)	第26回	World Issues (2)
第12回	Measurements (1)	第27回	Forensics (1)
第13回	Measurements (2)	第28回	Forensics (2)
第14回	Statistics - Its Basic	第29回	Home Economics (1)
第15回	Summary of the Spring Term	第30回	Home Economics (2)
		第31回	筆記試験

到達目標

図書館との付き合い方の習得、読んだものを記録として残す、ゼミ形式の授業に慣れる。英語でリベラル・アーツのユニットを読む、講義を聞く（質問することによって参加意識を確立する）、ノートの取り方、研究のテーマを決める、補助教材としての印刷教材を土台にして、口頭発表、種々のレポートの作成。

履修上の注意

1年の時のリベラル・アーツをテーマにした英語の記事を中心に読んだり書いたり、聞いたりすることなどを通して、何が議論する価値のある課題であるかを考え決定します。また、ユニットによって異なる主張が特に取り上げる価値があります。配布された印刷補助教材をグループで解いていきます。演習のまとめをその日のうちにおくようにしてください。積み重ねが大切ですので、欠席しないように。

予習・復習

配布された印刷教材にあらかじめ目を通しておき、アンダーラインを引いたり、メモを書き込む。またゼミの時に質問できるようにあらかじめ疑問に思うこと、問題点、自分の代案などを考えておく。毎回、授業の内容や得たことを、ノートに基づいて整理しておくこと。

評価方法

演習への参加度と提出物(30%)、および筆記試験(70%)で総合的に評価します。

テキスト

- 教科書名：1年生の時に用いた英語の教科書を使います。また印刷教材をこちらで用意します。
Knowledge Expanader —English for Liberal Arts. (ですから買う必要はありません)
- 著者名：上村淳子、アイリーン岩崎、原雅久
- 出版社名：Asahi Press.
- 出版年：2015

授業概要

カルチュラル・スタディーズ 映画を読む

映像教材を利用し、映画の重要な場面を見て、映画の文化的無意識を考え、あまり大学では論じられないサブカルチャーが方法次第で、いかにスリルに満ちた研究対象へと変貌するか、その知的興奮を堪能したい。とりわけ、竜という恐怖イメージを中心的に分析することで、人間にとって敵や恐怖とは何かを考察してゆく。また、『アナと雪の女王』におけるお姫様、クトゥルフ神話 SFにおけるロボットの進化、原発や東日本大震災と津波、原爆のキノコ雲など、様々なテーマを探求したい。『ドラゴンクエスト』はいかなる文化風土から誕生したのか。『シン・ゴジラ』はどのように進化したのか。新海誠の『君の名は。』はなぜ大ヒットしたのか。ジブリの『崖の上のポニョ』の津波のシーンは、トラウマをかかえた人々にとってどう映るのか。いくつかの疑問を提供することで、映画とサブカルチャーの魅力に迫る。

授業計画

第1回	自己紹介 ゼミの目的について	第16回	ゾンビ映画文化論
第2回	『ジョーカー』分析—アメコミの変貌	第17回	現代日本のゾンビ文化史
第3回	竜退治の進化—『白鯨』から『ジョーズ』	第18回	携帯小説の文化史—『ディープ・ラブ』
第4回	ディズニーランドという聖地	第19回	携帯小説を読む—『窓空』
第5回	『アナと雪の女王』—アニメの変貌	第20回	ライトノベルの文化史
第6回	H・P・ラヴクラフト研究	第21回	新海誠の風景『秒速5センチメートル』
第7回	クトゥルフ神話の文化史	第22回	『君の名は。』とタイムトラベル文化史
第8回	テレビゲーム進化論	第23回	ジブリと災害—『崖の上のポニョ』
第9回	『ドラゴンクエスト』の文化史	第24回	ジブリと核—『風の谷のナウシカ』
第10回	災害と怪獣文化—ゴジラの文化史	第25回	ジブリと自分探し『千と千尋の神隠し』
第11回	『シン・ゴジラ』論—ゴジラの変貌	第26回	巨人退治の物語論—『進撃の巨人』
第12回	レポート発表会	第27回	SF映画の進化論—赤狩りの映画史
第13回	オタクの文化史—『電車男』論	第28回	ハリウッドSF映画におけるキノコ雲
第14回	『不思議の国のアリス』とロリータ文化	第29回	原爆とアニメ—『この世界の片隅に』
第15回	嶽本野ばらの『下妻物語』を読む	第30回	都市伝説の文化論

到達目標

政治的トピックスを考察することで、身の回りの文化現象に関心を持ち、それを分析してゆく知性を養うことを目標とする。また現代社会を生き抜くメディア・リテラシーも養成したい。

履修上の注意

マナーを尊重して楽しい授業にするために、積極的な参加を望みたい。映画の好きな学生は特に歓迎したい。時にセンセーショナルな映像を見ることがあるので、苦手な学生は注意してほしい。大量の資料を配布するのでファイルを持参。

予習・復習

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。

評価方法

学期末レポート（60%）、提出物およびコメントペーパー（40%）などの総合評価。

テキスト

- ・教科書名：『恐怖の表象 映画/文学における<竜殺し>の文化史』
- ・著者名：西山智則
- ・出版社名：
- ・出版年：

授業概要

本演習は 3 年次からの専門演習に向けての「予行演習」と位置づけられる。したがって、本を読むこと、そして口頭発表の練習や質疑応答に重点が置かれることになる。適宜、関連する DVD を視聴し意見交換も行う。

テキストは次の 2 冊を使用する。

- ① 小杉樹彦『20 代で身につけたい働き方の基本』（新評論、2019 年）の輪読を通して、将来社会人として活躍するために、人から信頼されることによって円滑な人間関係を築くことが大切であることを学ぶとともに、良い仕事人となるためのヒントが得られればと考えている。
- ② 鹿野政直『近代国家を構想した思想家たち』（岩波書店、2005 年）をテキストとし、近代の日本思想を学んでいく。毎回日本の代表的な思想家を取り上げ、「国民」の形成、世界と日本、変革の思想などの問題を考えていきたい。進め方としては、受講者各人に割り当てをした上で、担当箇所の発表をしてもらう。読書の習慣や口頭発表の作法を身につけてもらえるようキメ細かく指導する。

授業計画

第 1 回	春期の進め方の説明	第 16 回	秋期の進め方の説明
第 2 回	『20 代で身につけたい働き方の基本』の講読①	第 17 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読①
第 3 回	『20 代で身につけたい働き方の基本』の講読②	第 18 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読②
第 4 回	『20 代で身につけたい働き方の基本』の講読③	第 19 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読③
第 5 回	『20 代で身につけたい働き方の基本』の講読④	第 20 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読④
第 6 回	『20 代で身につけたい働き方の基本』の講読⑤	第 21 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑤
第 7 回	『20 代で身につけたい働き方の基本』の講読⑥	第 22 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑥
第 8 回	就職活動関連の DVD の視聴と意見交換	第 23 回	歴史関連の DVD の視聴と意見交換
第 9 回	『20 代で身につけたい働き方の基本』の講読⑦	第 24 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑦
第 10 回	『20 代で身につけたい働き方の基本』の講読⑧	第 25 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑧
第 11 回	『20 代で身につけたい働き方の基本』の講読⑨	第 26 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑨
第 12 回	『20 代で身につけたい働き方の基本』の講読⑩	第 27 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑩
第 13 回	『20 代で身につけたい働き方の基本』の講読⑪	第 28 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑪
第 14 回	『20 代で身につけたい働き方の基本』の講読⑫	第 29 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑫
第 15 回	春期の総括	第 30 回	秋期の総括

到達目標

- ① 本を読む習慣を身につける。
- ② 口頭発表やレジュメの作成に慣れる。
- ③ 自分の意見を述べるができるようにする。

履修上の注意

- ① 日本史、特に近現代史に興味を持っている者が受講者としては望ましい。
- ② 演習は学生主体で行われるものなので、全出席することが前提である。無断欠席は認めない。

予習・復習

- ① テキストは毎回必ず各自事前に目を通しておく。
- ② 自分の発表に際しては、レジュメを作成する。

評価方法

授業に対する姿勢（発表準備や質疑応答への参加）80%、レポート 20%

テキスト

- ① 『20 代で身につけたい働き方の基本』小杉樹彦、新評論、2019 年
- ② 『近代国家を構想した思想家たち』鹿野政直、岩波書店、2005 年

授業概要

日本の国宝・重要文化財の写真を鑑賞しながら、特徴や感想などについて話し合う。それを通じて、人前で意見を述べ、他者の意見を聴く練習を重ねる。同時に、文化財を鑑賞するポイント（仏像の姿形や持物のもつ意味とか、時代判定の着眼点など）を伝授する。なお、古代・中世の仏教美術を中心にとりあげる。

授業計画

第1回	ガイダンス（授業の進め方）	第16回	平安時代③ 中尊寺金色堂ほか
第2回	美術史の基礎知識① 仏像	第17回	平安時代④ 清凉寺釈迦如来立像ほか
第3回	美術史の基礎知識② 建築・絵画	第18回	平安時代⑤ 巖島神社平家納経ほか
第4回	縄文・弥生・古墳時代	第19回	平安時代⑥ 源氏物語絵巻ほか
第5回	飛鳥時代① 高松塚古墳壁画ほか	第20回	平安時代のまとめ
第6回	飛鳥時代② 法隆寺救世観音ほか	第21回	鎌倉時代① 浄土寺阿弥陀三尊像ほか
第7回	飛鳥時代③ 法隆寺金堂・五重塔	第22回	鎌倉時代② 三十三間堂・観音菩薩像
第8回	飛鳥時代④ 中宮寺菩薩半跏像ほか	第23回	鎌倉時代③ 平治物語絵巻ほか
第9回	飛鳥時代（白鳳を含む）のまとめ	第24回	鎌倉時代のまとめ
第10回	奈良時代① 興福寺阿修羅像ほか	第25回	室町時代以降① 慈照寺銀閣ほか
第11回	奈良時代② 薬師寺薬師三尊像ほか	第26回	室町時代以降② 姫路城・犬山城
第12回	奈良時代③ 唐招提寺鑑真和上像ほか	第27回	室町時代以降③ 洛中洛外凶屏風ほか
第13回	奈良時代のまとめ	第28回	室町時代以降④ 茶道の美術
第14回	平安時代① 神護寺薬師如来立像ほか	第29回	室町時代以降のまとめ
第15回	平安時代② 平等院鳳凰堂・阿弥陀像	第30回	中国・朝鮮から渡来した文化財

到達目標

いわゆる国宝・重要文化財級の作品を50点くらいは知っていて、名称・制作年代・特徴などを語れるようになること。50点なんてたいへんだ～！と思うかもしれないが、文化財指定件数のわずか0.3%に過ぎない。がんばろう。

履修上の注意

- * 黙って写真を見ていればよいなどと気楽に考えられては困る。活発に発言してほしい。
- * 遅刻や欠席の扱いについては、下の「評価方法」の欄を見ること。

予習・復習

- 【予習】指示にしたがって教科書に目を通しておく。
- 【復習】教科書の作品解説を読み返して理解するよう努める。

評価方法

期末ごとに筆記試験を行なって評価する。通年科目だけれども、春期末にも試験を実施することに注意。また演習科目であるから、受講態度を重視する。

配点比率：春期末試験得点 40%、秋期末試験得点 40%、受講態度 20%

テキスト

- ・教科書：『よくわかる国宝 国宝でたどる日本文化史』 岡部昌幸監修（JTBパブリッシング，2009年）
…毎回持参すること。変更する可能性があるため、4月に配付する「教科書販売一覧」で確認。
- ・参考書：『新版 図説歴史散歩事典』 佐藤信編（山川出版社，2019年）
…必須ではないが、持つことを強くすすめる。たいへん役に立つ本である。
- ・その他、必要に応じてプリントを配付する。

授業概要

「ことば」をテーマに、「ことば」で思考し、「ことば」で表現し、「ことば」で対話をしていきます。

実際に受講者自身が、一人でまたはグループで取り組み、実践的な以下のようなことを行います。教員は最大限サポートするので、受講者は、ゼミでのまとまりを大切にしながら、自らの言葉についての感覚やスキルを磨く場としましょう。

授業計画

以下の予定は進捗状況により変更もあり得ます。学外授業を行う可能性もあります。

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	プレゼンテーションを行う①
第 2 回	ゼミの仲間を知る①	第 17 回	プレゼンテーションを行う②
第 3 回	ゼミの仲間を知る②	第 18 回	プレゼンテーションを行う③
第 4 回	ゼミの仲間を知る③	第 19 回	プレゼンテーションを行う④
第 5 回	インタビューをする①	第 20 回	プレゼンテーションを行う⑤
第 6 回	インタビューをする②	第 21 回	プレゼンテーションを行う⑥
第 7 回	インタビューをする③	第 22 回	キャッチコピーを作る①
第 8 回	インタビューをする④	第 23 回	キャッチコピーを作る②
第 9 回	インタビュー記事を書く①	第 24 回	キャッチコピーを作る③
第 10 回	インタビュー記事を書く②	第 25 回	短歌を詠む①
第 11 回	インタビュー記事を書く③	第 26 回	短歌を詠む②
第 12 回	インタビュー記事を書く④	第 27 回	短歌を詠む③
第 13 回	編集する①	第 28 回	短歌を詠む④
第 14 回	編集する②	第 29 回	短歌を詠む⑤
第 15 回	まとめ	第 30 回	卒業論文発表会に参加する
		第 31 回	レポート提出

到達目標

- ① ことばとそれによる表現について興味を持ち、自分なりの視点で考察することができるようになる。
- ② 他者と関わることによって、互いの立場を理解しながら自らの世界を広げ、深めることができるようになる。

履修上の注意

すべて出席するのが前提であり、遅刻欠席をしないこと。

主体的、積極的な態度で臨むこと。

その他のルールは授業内で示す。

予習・復習

【予習・復習】決められた課題について、準備し、進行させておくこと。

評価方法

授業内での課題、発表、レポート、授業への参加態度をあわせて総合的に評価する。

テキスト

使用しない。

授業概要

前半では、変体仮名（かつては使われていたものの、現在ではあまり使われていない仮名）が読めるように指導します。そして後半は、前半で得た技能を生かしつつ、平安前期の歌物語集である『伊勢物語』の著名な章段を読解します。なお、作品の読解は、主として学生による発表形式で進めます。

授業計画

第 1 回	変体仮名とは何か	第 16 回	今後の授業の進め方について
第 2 回	変体仮名の読解① 定家様	第 17 回	『伊勢物語』について
第 3 回	変体仮名の読解② 和歌	第 18 回	六歌仙について
第 4 回	変体仮名の読解③ 伊勢物語	第 19 回	在原業平の和歌について
第 5 回	変体仮名の読解④ 源氏物語	第 20 回	発表資料の作り方、口頭発表の仕方
第 6 回	変体仮名の読解⑤ 歌合	第 21 回	図書・学术论文の調べ方
第 7 回	変体仮名の読解⑥ 枕草子	第 22 回	『伊勢物語』を読む① 初段
第 8 回	中間テスト	第 23 回	『伊勢物語』を読む② 芥川
第 9 回	テストの返却と解説	第 24 回	『伊勢物語』を読む③ 東下り
第 10 回	変体仮名の読解⑨ 徒然草	第 25 回	『伊勢物語』を読む④ 狩の使
第 11 回	変体仮名の読解⑩ 平家物語	第 26 回	『伊勢物語』を読む⑤ 筒井筒
第 12 回	変体仮名の読解⑪ 小学唱歌	第 27 回	『伊勢物語』を読む⑥ 渚の院
第 13 回	変体仮名の読解⑫ 近代の書簡	第 28 回	口頭発表の補足・補充調査①
第 14 回	期末テスト	第 29 回	口頭発表の補足・補充調査②
第 15 回	テストの返却と解説	第 30 回	半期のまとめ
		第 31 回	期末テスト

到達目標

- ① 変体仮名を読み解くことができる。
- ② 『伊勢物語』の概要や時代性について説明できる。
- ③ 口頭発表、および発表資料作成の方法を習得する。

履修上の注意

日本古典文学や、その周辺文化に興味をもつ方の受講を臨みます。第 1 回授業以前に、初学者向けハンドブックや高校時代の教科書等で、『伊勢物語』の概要や主要登場人物を調べておくこと。また、「日本文学入門」「日本文学講読（古典）」と併せて受講することをお勧めします。

予習・復習

予習：次回の授業内容（受講生の発表内容）を予告するので、下調べをしておく。

次回発表担当者は、配布資料を 作成し、発表練習をする。

復習：授業のプリントやノートをまとめ直す。発表担当者は、質疑応答を踏まえて補充調査を行う。

評価方法

授業への参加態度（質疑応答での発言を含む）30%、発表の内容 40%、テスト 30%を目安として、総合的に評価します

テキスト

- ・教科書名：『字典かな—出典明記』
- ・著者名：笠間影印叢刊行会
- ・出版社名：笠間書院
- ・出版年（ISBN）：1972年（978-4305000002）